

健康へのメッセージ

シリーズ 123

小腸の病気

光町のみなさんこんにちは。今回は小腸のお話です。

前回の十二指腸もその一部ですが、加えて空腸（全小腸の五分の二）と回腸（五分の三）があり、大腸の始めの盲腸に続きます。小腸は全体で6〜7mにも及ぶ体の中で最も長い管腔臓器です。その一番の仕事は食物の消化と吸収です。小腸の粘膜には小さな腸絨毛と呼ばれる突起があり、表面積は40㎡に達します。そこで盛んに消化液の分泌と吸収が行われます。

小腸に続く大腸の病気により通過障害が起こると小腸にもその影響が及びます。消化吸収が不十分になり、腸管内には液体が貯留し拡張し、腹痛を起こします。症状が進行すると最後には胃や十二指腸に影響して吐き気や嘔吐を生じます。腸閉塞（イレウス）と呼ばれる病態です。早急に検査及び治療が必要となります。

消化液は、胃液・十二指腸液・小腸液などとして一日数回にもなります。再吸収がなされると栄養障害や重症の下痢などが起こり、体力が消耗します。消化吸収機能の障害が起きると「吸収不良症候群」と呼ばれる病気になります。細菌感染の場合は原因に対する対策が必要です。しかし、胃切除術後、慢性膵炎や膵臓切除にともなう膵外分泌不全では消化液と食物との混和

化の場所が減少するため障害が起こります。

治療としては消化酵素剤のみでは不十分な場合が多く、最近では消化し易くした成分栄養剤や半消化体栄養剤と呼ばれる食品が開発されています。小腸の大半を切除せざるを得ない病気では、カロリーの補給のため、点滴による完全静脈栄養療法が不可欠となります。この場合にはビタミン類や亜鉛や銅などの微量元素の補給が重要です。

小腸の潰瘍性病変としては、大腸に見られる難治性の疾患であるクローン病が小腸にも見られる場合があります。クローン病は、大腸の時に述べますが、若い成人に多く発症し重度の狭窄により手術となり、結果として「短腸症候群」を起こす事もあります。小腸が初発の場合には特に診断が困難で、長く続く腹痛の後で大腸クローン病の診断がなされて始めて小腸クローン病の診断がつく場合があります。

小腸の病気としては稀ですが腫瘍があります。全消化管の癌の中では約1%と悪性のものは少ないのですが良性的の場合でも出血により貧血を起こす場合があります。また大きくなると通過障害を起こして来ます。胃や大腸に比較すると、小腸は深部に存在し、検査をすることが難しくなかなか診断がつかない場合があります。原因のはっきりしない貧血が長く続く場合は小腸の病気を疑って検査を受けることも必要です。

が不十分となり消化吸収に障害が発生します。また、悪性疾患などで小腸や大腸の広範囲な切除による「短腸症候群」と呼ばれる状態では消

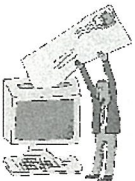


東陽病院 院長 伊藤 文憲

※東陽病院の休日当番日

3月21日(日) 午前8時30分〜午後6時
医師2名が待機・来院の際は電話を ☎13335

電子メールアドレスの登録を 予約資料が届き次第 電子メールでお知らせします



ほんの

＝町立図書館＝
☎3311

図書館では、電子メールアドレスを登録した方に、予約資料が貸出可能になり次第メールでご連絡するサービスを開始します。この機会にぜひ登録をお願いします。

図書館ホームページアドレス

http://
www.library.hikari.chiba.jp/

登録方法

図書館カウンターで専用紙に記入し、提出してください。または、ご自宅のパソコンからメールでお申し込みもできます。その場合はタイトルを「メールアドレス登録申し込み」とし、氏名・図書館の利用カード番号を記入の上、hlib@pastel.ocn.ne.jpまで送信してください。携帯番号のアドレスも登録できます。

※図書館ではメールマガジン(新着資料情報)の配信も実施中です。購読をご希望の方は、アドレス登録時に併せてお申込みください。



休館日

3月8日(月)、15日(月)、22日(月)、29日(月)、4月5日(月)、6日(火)